

## 第2回 石狩川開発建設部遊水地事業監理委員会 議事要旨

【開催日時】 平成21年7月28日(火) 15:20~16:50

【開催場所】 北広島河川防災ステーション 会議室

【委員】 内田 和男(北海道武蔵女子短期大学 学長)

◎加賀屋 誠一(北海道大学大学院工学研究科 教授)

許士 裕恭(寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ長)

黒木 幹男((財)河川環境管理財団 北海道事務所 北海道研究所長)

秀島 好昭(寒地土木研究所 寒地農業基盤研究グループ長)

(◎は、委員長(50音順))

### 【議題】

1. 今後の委員会の進め方
2. 審議事項
  - (1) 工程管理について
  - (2) 事業費管理について
3. 総評

### 【議事要旨(委員会意見)】

#### 《今後の委員会の進め方》

- ・ 議論しやすいように、工程管理、事業費管理の審議事項と、審議に関連して留意すべき事項に区切って議論することで委員会を進める。

#### 《工程管理について》

- ・ 計画工程に対して、地元調整には予想以上に時間を要して工程が遅延する可能性もあるので、技術的な代替策も考えつつ計画的に進めることも必要である。
- ・ 全国的に短時間に集中する豪雨が多発している。遅れている千歳川流域の治水対策として千歳川遊水地群を早期に供用させる工夫をした工程で進めることが必要である。
- ・ 予算事情を踏まえつつ工程の管理をしていくことが必要である。

#### 《事業費管理について》

- ・ 予算執行やコスト縮減の成果について共有しやすい工夫が重要である。
- ・ コストの増減は、比較の基準を設けてベースを変えないで議論していくことが必要である。
- ・ 遊水地内の掘削で発生する不良土の利用についてコスト面から整理する必要がある。
- ・ 排水機場等の施設の移設の際に、機器の再利用が可能であればコスト縮減も出来る。

《関連する留意すべき事項》

- ・ 供用後のイメージは、場所によって状況が相違することや、必ずしも美しいものとはならないこと、面積が広いことを踏まえ、イメージが実態と乖離しないように、住民説明や遊水地利活用検討の際には留意したほうが良い。
- ・ 千歳川の治水対策を決定した経緯も踏まえつつ、遊水地の治水機能や効果、有効性について、計画規模以上の洪水の場合等も含め、一般の方に判りやすく説明することが重要である。
- ・ 管理にあたって、複数ある排水門等の操作は複雑にならないようにするべき。
- ・ 掘削土の状況を踏まえ、周囲堤盛土の品質を確保するように土の利用を図られたい。
- ・ 洪水によって遊水地に流砂物が貯まると考えられ、土砂を排出する場所やデザインに留意されたい。
- ・ 遊水地の機能を十分に発揮する維持管理が必要である。
- ・ 事業全般をマネジメントする際には、ライフサイクルコストも予め考えておくことが必要である。

以上